

特42

921

新編 菅原物語 全



W23743/

23



像の丸童石

像の圓濟菴



銅刻
實說双紙

島鮮堂梓



石童丸父を尋て
高野へ登山の図

石童丸

陀柳

州萱

石童丸

州萱



監物 太郎 義弘 七石 童丸 城



監物 太郎 義弘 七石 童丸 城



ナリ

五

肥前松浦の城に加藤左門
 大内菊地原田等の大敵
 戦ひ數度勝利を奏せ
 其功切り從西國
 賞ありて千鳥の
 前賜り葉の
 探題に
 重氏用いら

深く奥の方葉の前へ快より
 然其貞探正に更ふ
 城始の合はるく
 次エ

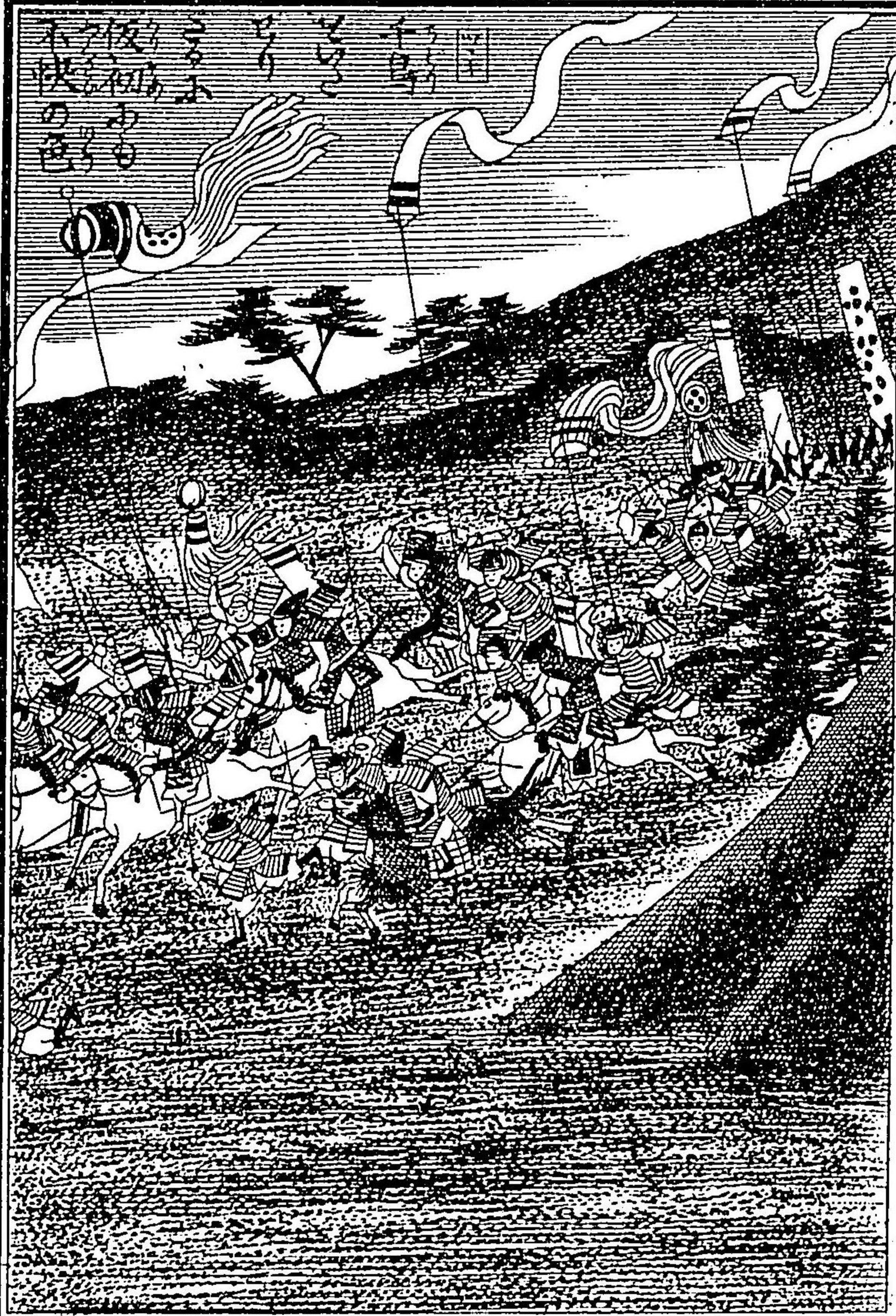
重氏



ナリ

△キ
 茲大内義弘
 菊地原田とて
 り天下奪い
 んと兵を起さ

△儲也
 重氏千鳥の前を賜り喜限り
 るく殊無比類なり美人也電愛



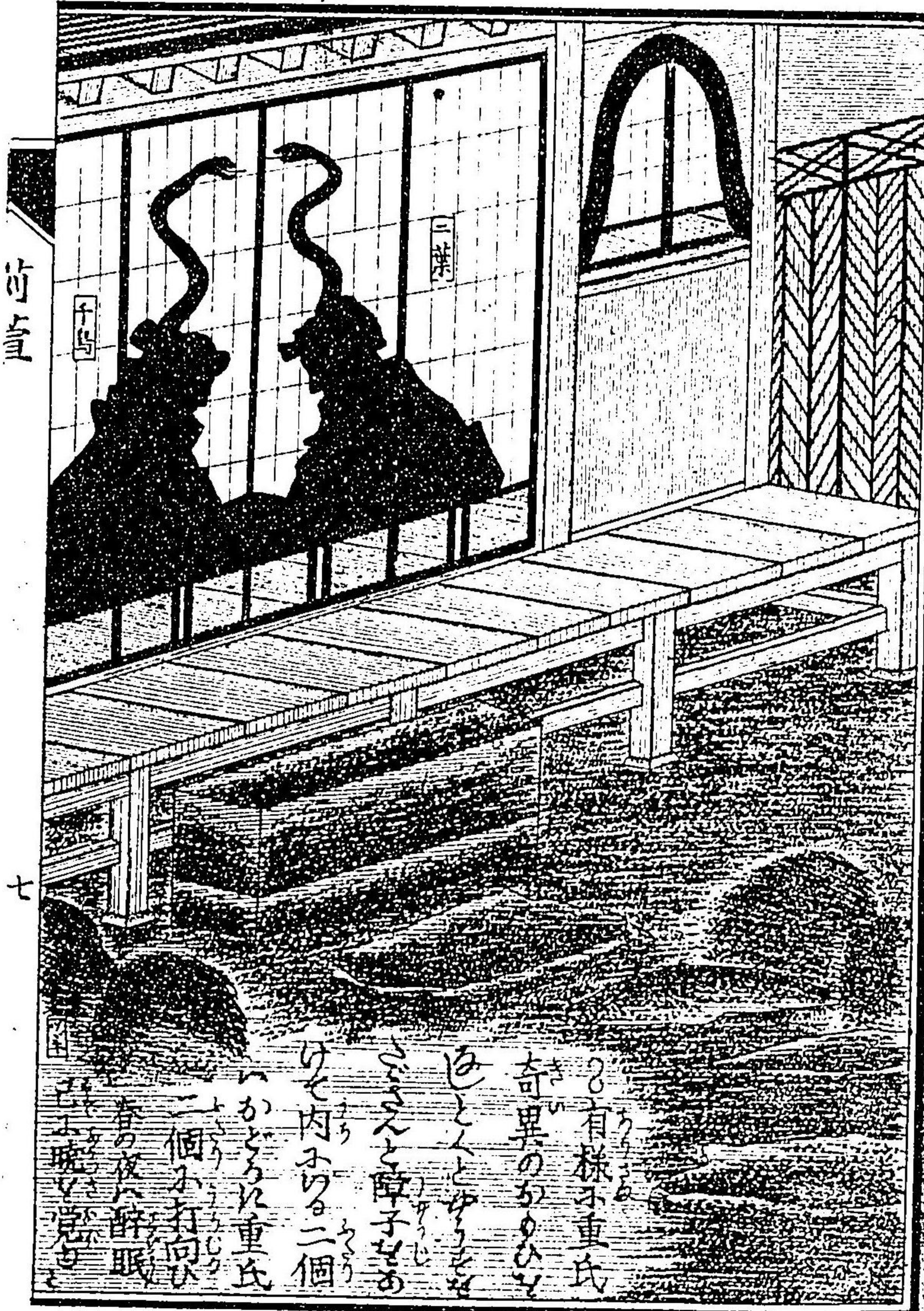
初夜
 の色
 影や葉十鳥
 雨の十不桃
 櫻の色
 成夜重氏庭の櫻
 るめん



十鳥の葉の前
 情あるて感
 時
 早五年の星霜
 経く弥生の
 花の頃春の夜の
 腕
 影や葉十鳥
 雨の十不桃
 櫻の色
 成夜重氏庭の櫻
 るめん

六

六



行書

七

有様不重氏
 奇異のあひひ
 ほとんとやうき
 へと内みりる二個
 へかどらね重氏
 二個お打向
 青あな酔眠



如龍

障子ふらうつ
 二葉千鳥の両
 八々双六盤
 打られ
 寝るき
 るあし
 ぬち
 髪のも逆
 二頭の蛇とあり
 しと華よる

重氏

り見やう向ふの奥坐



監物太郎とてめ家
中の面々と大事



重氏
 重氏の子は、今三人あり、仮に、
 物語り、を、聞、ま、し、て、
 色重氏、女子の、心、根、国、家、と、失、る、
 身、と、亡、し、て、
 女、色、の、此、身、の、あ、ら、
 之、より、墨、跡、の、世、を、捨、入、の、身、と、
 乃、り、て、心、を、易、く、か、ら、ん、と、や、み、
 武、主、も、無、常、と、感、
 入、ん、と、志、し、と、發、
 家、
 高、野、山、の、の、り、
 重、氏、の、在、る、
 の、々、方、更、あり、老、臣、



九

九

文





萱

同道の在
 教の
 心今道
 心今道
 心今道

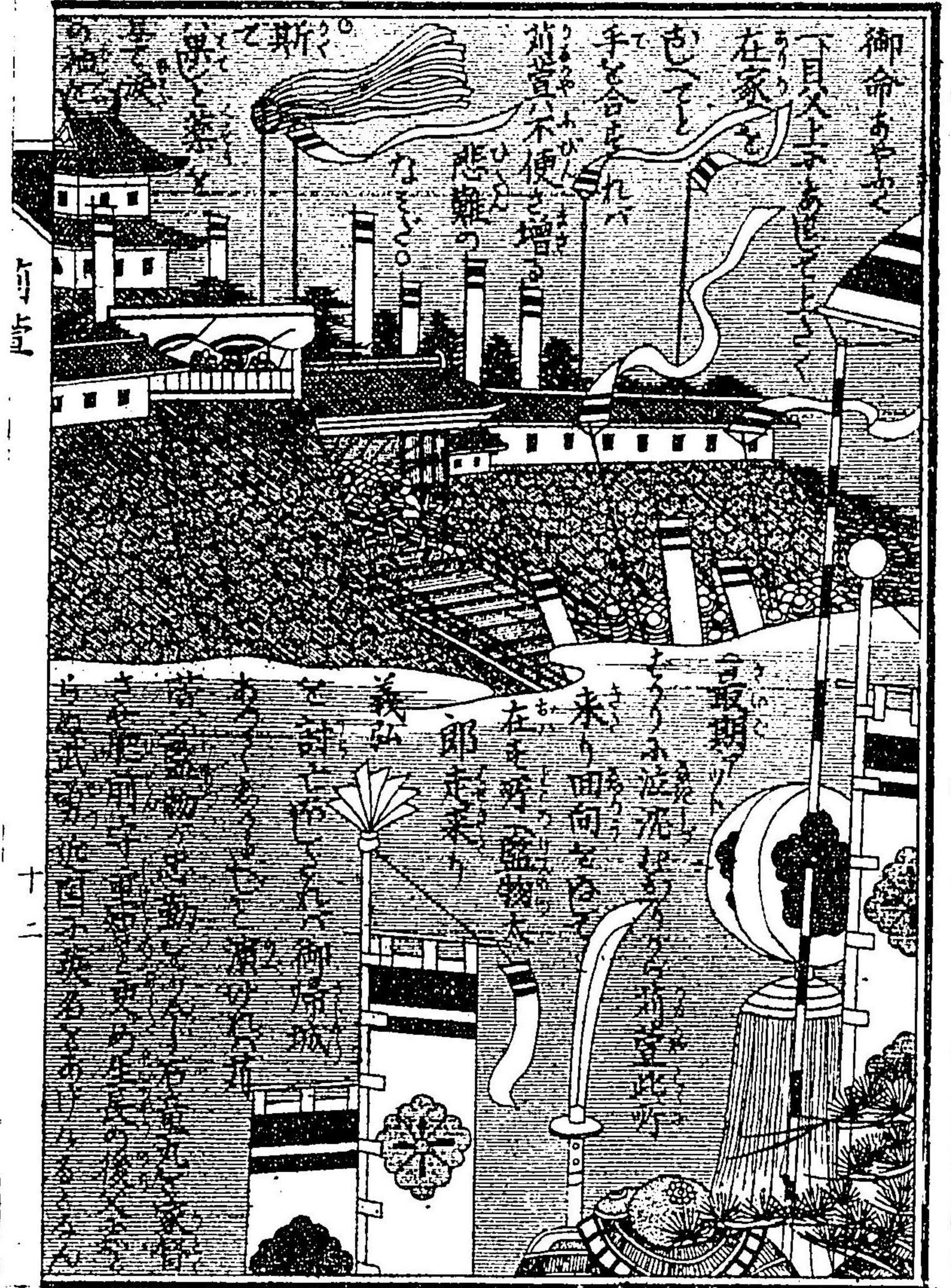


丸

石童丸の只うかゝる二葉
 の前ハ我子小向ひ是より
 先ハ女子の登れぬ此御山之
 よりそる父上を言母の
 来し事とく父を
 同道とく早く
 往かるとこれ心
 丸登行ふ此方
 来新萱道
 石童丸ハ走寄
 て此御山今

石童丸の母加藤左門重氏
 此御山の山頂に居りて

俗の
 語
 丸



御命ありやと
一目又上りて
在家を
色を
手は合はれ六
消首の不使と増
悲難
斯
の相
史
十

御命ありやと
一目又上りて
在家を
色を
手は合はれ六
消首の不使と増
悲難
斯
の相
史
十



佛の教も
あれ(諭)
いふさんじ
父の在る顔を知ぬ
石重
九法衣
大内不惚れ
母と共不離
追来しが母
上持病を
人堂見
母(果)
敢るた
重智

佛の教も
あれ(諭)
いふさんじ
父の在る顔を知ぬ
石重
九法衣
大内不惚れ
母と共不離
追来しが母
上持病を
人堂見
母(果)
敢るた
重智

佛の教も
あれ(諭)



紀州高野山之圖

明治三十三年
五月一日印刷
五月廿四日出版

印刷兼發行者
日本橋區馬喰町三丁目四番地
網島龜吉

